

「問題解決の道」

～問題回避から問題解決！！ メタノイアへの道 2～ エステル記4章8節～17節

■ 仕事とは問題を解決すること

ヤマト運輸の2代目社長、小倉昌男さんは会社が経営危機に陥っていた中で宅急便事業を創められました。そこには都会で暮らす子供に季節の品を食べさせたいという田舎のお母さんの思いや、孫が生まれたので服を送ってやりたいというおじいさんおばあさんの思いに応えたいという強い思いがありました。「人からしてほしいと思うことを、人にしてあげる」この信念で多くの役員の反対する中、事業を創められました。

従来通り、法人客中心の事業に軸足を置けば、安心感がありますが経営危機は救えません。新しい事業はリスクがありますが、将来発展する可能性があります。

私たちは問題を前にしたときどう対処するでしょうか？

- 1) 現状を変えたくない人・・・話せば変わる
- 2) 現状を変えたい人
- 3) 何も思わない人・・・日本の多くの若者がこうなっています

仕事とは問題解決のためにあります。人間としての在り方を保つ生き方は、問題を解決してあげる生き方です。問題を逃げる行為を言い訳といいます。

私たちは問題を前にしたときにどのような態度をするでしょうか？

神様はアダムが罪を犯したときに、それを黙ってみていたでしょうか？神様はアダムと向き合い、アダムに語り掛けました。アダムの問題に向き合われました。

■ エステル記

ペルシア王アハシュエロスの時代に、ユダヤ人を絶滅しようとしたハマンの陰謀をモルデカイが知り、養女であった王妃エステルに助けを求めます。

エステルは王妃であっても王の命令がないまま王の前に立つことは死の危険があると、一度は申し出を断りますが、ユダヤ人絶滅の危機を前に、自らの命をかけて同法のユダヤ民族を救います。

「行って、シュシャンにいるユダヤ人をみな集め、私のために断食をしてください。三日三晩、食べたり飲んだりしないように。私も、私の侍女たちも、同じように断食をしましょう。たとい法令にそむいても私は王のところへまいります。私は、死ななければならないのでしたら、死にます。」エステル4章16節

■ エステルの心の変化が悔い改めそのもの

エステルは最初、自分を見ていました。呼ばれてもいらないのに王の前に行くことは死の危険があります。モルデカイからの申し入れは理解できるけれども、自分には王の前に立つことなどできない、そう思っていました。これは神様に裁かれるので何とか自分を守ろうとしたアダムとイブの考えと同じです。問題を回避しようとする行為です。しかし、エステルはモルデカイからの再び説得されて思いを変えます。

エステルは「このままでは同法が死んでしまう。ならば私が目線を変えなければ」という思いに至りました。これが悔い改めです。

悔い改めとはギリシャ語でメタノイアといい、ヘブル語ではニッハムといいます。

メタ：after（～の後で）

ノイア：ヌースからの派生語でマインド、視点、考え、思いを表す

メタノイアの直訳は「視点、考えを後で変える、思い直す」という意味です。

人の痛み、苦しみ、さびしき、くやしき、怒りに、人の痛みのわかるところに視座・視点を移す。共感・共有できるところに目線を変えることです。

■ 神様の方法で問題を解決する

目の前で困っている人がいるのを見ると、このままで良いのかと問われます。でも、自分一人ではできません。そんな時神様は「私のやった方法でやるように」と言われます。イエス様はその生涯でたくさんの人々の問題を解決していかれました。私たちそれぞれがイエス様にいただいた方法で、問題を抱えた人と向き合わなければいけません。自分流で問題を解決しようとしてはいけません。

イエス様は自分の問題でないことのために十字架にかかられました。私たちクリスチャンは目の前にある問題に気付いたなら、見て見ぬふりをするのではなく解決しないといけません。

目線を変えなければ問題は解決できません。もし目線が人に向いているなら、神様に向け直しましょう。人に解決を求めても根本的な解決には至りません。神様に目を向けましょう。神様を見ないでいると私たちは被害者意識を持つようになります。自分の過去の都合の良い部分だけを引き出して使おうとするようになるからです。

だから今、自分がイエス様のどの行為を用いて生きていくかを決めましょう。イエス様のすべての部分を真似することはできなくても、一部分だけならできます。そして教会の家族が集まるなら、それはイエス様の体になります。

「しかし、人が主に向くなら、そのおおい取り除かれるのです。」コリントII 3章16節

■ 問題を神様の前に運ぶ僕

イエス様の人生はどのようなものだったのでしょうか？家畜小屋で生まれ、自分が生まれたために多くの子供が殺されました。痛みからのスタートです。

神の在り方を捨ててこの地に来られたのに、自分を礼拝しに来たのは羊飼いと他国の博士たちでした。ご自分の愛した人は誰一人来ませんでした。

ガリラヤの田舎で大工の子として身分の低い者として過ごしました。そして、そこで仕事を学び、問題解決のためにたくさんの人と向き合いました。

私たちは神の似姿に創造されました。イエス様の似姿です。自分の目をイエス様のどの部分、どの方法に向けるでしょうか？イエス様と重ねあう方法で、おかれた場所で咲かなければいけません。イエス様の好きだと感じるところ、素晴らしいと感じるところ以外で問題解決をしようとしてはいけません。

イエス様は、あなたの問題を解決するために十字架に架かられました。だからあなたも目の前で問題を抱えている人を見たなら、イエス様のところに運んで行ってあげましょう。

(要約者:日名 洋)

(3月19日)